

事務事業評価表 平成22年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

施策 高齢者福祉の充実

基本事業 地域交流と社会参加の促進

事業名 ふれあい入浴デー事業

[0214]

部名	健康福祉部	事業開始年度	平成8年度	実施計画事業認定	非対象
課名	介護保険課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内在住の高齢者及びその介護者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>介護予防のため、高齢者の心身の健康保持とふれあいの増進を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>市内の公衆浴場に委託し、毎月第4月曜日に無料で開放する。 浴場において直接受付名簿に氏名、年齢を記入してもらい、その実績報告に基づき毎月の委託料を支払う。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	65歳以上の高齢者数	人	24,645	25,627	26,383	27,139
対象指標2						
活動指標1	委託浴場数	施設	7	6	6	6
活動指標2						
成果指標1	利用者数	人	10,225	8,539	6,473	6,500
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	3,364	2,884	2,755	2,777
正職員人件費 (B)		千円	419	418	415	416
総事業費 (A) + (B)		千円	3,783	3,302	3,170	3,193

費用内訳	
21年度	<p>役務費 6千円、委託料 2,749千円</p>

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	高齢化の進展とともに、隣近所との交流がやや希薄になりつつある。また、銭湯も減少傾向にあり経営も厳しい。
--------	--	-------------	---

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

高齢者が年々増加しており、高齢者福祉の観点から、高齢者の心身の健康保持と地域社会とのふれあいを図ることは妥当。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

月に1度程度の無料開放のため、高齢者の生きがいづくりへの貢献は中程度。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

一昨年に委託公衆浴場の一つが廃業するなど、利用者数は減少傾向にある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

無料開放による入浴がどの程度生きがいづくりに結びつくか不明の部分もあるが、月1回の無料開放日を増やすことにより成果が向上する余地はある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

現在も特に利用料の負担以外にコストは必要としていないため、コスト削減の余地はない。